

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第62回新潟県公民館大会 事例発表(概要) 魚沼市・星野 修美

- 4.5
- 2 **トピックス** 関ブロ茨城大会参加レポート 副会長 鈴木 昇
- 3 **視点** 学ぶ力とつながるまちづくり 上越市・北澤 恵
- 3 **ひろば** 子どもたちと接して 聖籠町・宮澤 夕佳
- 6 **実践記録シリーズ** 「太陽とともだち!サマースクール事業」 NPO 法人健康サポートプラス・奈良橋 里江子
- 7 **サークル交流** 楽しく、時にはきびしく(小千谷市) / 「和」づくりのダンス同好会(湯沢町)
- 7 **素顔拝見** 若月 沙織さん(柏崎市) / 小川八重子さん(上越市)
- 8 **お元気ですか** 長岡市・渡辺 均さん
- 8 **ネットワーク**



「小木海岸・沢崎のたけのこ岩」(佐渡市 ~日本ジオパーク、そして世界ジオパークを目指します~)

表紙解説

1802年の地震で隆起した波食台の上に立っている枕状溶岩でできた岩で、昔の海底火山を知ることができます。

第52回関東ブロ公民館大会・茨城大会参加レポート

新潟県公民館連合会 副会長 鈴木 昇

11月18日(金)につくば市において第52回関東甲信越静公民館研究大会が開催されました。

この大会は、東日本大震災で会場の水戸市が被災したために一時開催が危ぶまれました。当初、例年通り二日間の日程で開催予定でしたが開催担当県の茨城公連が、会場変更や日程変更等の協議を重ねて開催にこぎつけました。

大会日程等が変則的な開催ですので、大会プログラムなどは例年と大きく変わっていて、分科会の取り止めや終了時間を遅くするなど、全体的にやや窮屈な感は否めませんでした。

新潟県からは私を含めて20名の参加でした。県内各市町村から多数の参加を期待しましたが、会場が遠隔地であることや終了時間が遅いことなどが理由で断念したのではないかと推察しています。平成25年度の新潟大会開催に向けて、24年度の長野大会には多数の参加がのぞまれるところです。

参加者総数は1,185名で、その内茨城県が457名でした。全体では例年並みの参加者でした。

*



アトラクション 太鼓演奏

大会は開会式の前に、賑やかに「友部囃子仲南会」の太鼓演奏から始まりました。アトラクションとしては時間や演目の分かり易さなどびびったりだと思いました。

開会式は「あいさつ」と「表彰」が粛々と進み約40分で終了しました。続いて歓迎講演が60分あ

り、講師は茨城が生んだ童謡詩人・野口雨情の孫にあたる野口不二子さんでした。雨情の経歴や功績と共に雨情が作詞した代表的な童謡を自ら唄いました。

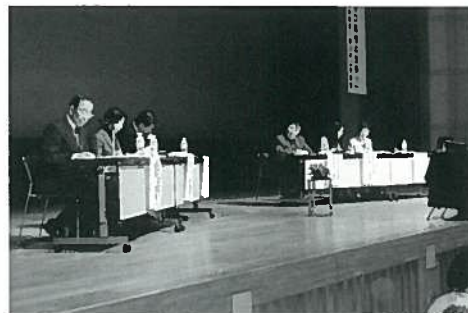


童謡を唄う野口不二子さん

シンポジウムは5人のシンポジスト(女性3人、男性2人)で、コーディネーターの進行によって1時間40分にわたって行われました。

大会主題の「新しい時代(共同の時代)の生涯学習・社会教育・公民館活動を推進するための公民館・社会教育委員

の新しい姿を探り、創り、そして「さあ動きだそう」をテーマに、地域活動のあり方をそれぞれの立場から提案するものでした。



シンポジウムの模様

提案発表は専門的な立場から内容の濃いものばかりでした。特に、首長部局に公民館を移した「水戸市」の事例は興味を引くものがありました。

また、シンポジウムとしては珍しく会場との質疑応答があり、この水戸市の取り組みを掘り下げた意見交換を期待

しましたが残念ながら時間切れになりました。

*

大会運営面では、茨城社会教育連絡協議会と共催したこともあり役員の編成・運営等に苦労したのではないかと思います。計画の再提案をはじめ、すべてにおいて開催準備に多大な労力が必要であったのではないかと推察しています。

大会視察の立場では、受付の開設時間や郷土の特産品販売コーナーの位置など運営に参考になるものが多くありました。来年の長野大会にも参加し運営面など参考にして、翌年の新潟大会を成功にすべく作戦を練ろうと思います。

次期開催地の長野県に大会旗が引き継がれ4時半に閉会となりましたが、それから帰途について、遠い上越市や胎内市からの参加者は夜10時過ぎの帰宅になったようです。お疲れ様でした。

視点

学ぶ力と つながるまちづくり



浦川原地区公民館サポーター 北澤 恵

合併後地域にかつての活気がない。行政職員は少なくなり、高齢化・過疎の進む地域は、学校や集会、学習施設を持って余し気味な気がしている。子どもの頃の公民館活動が懐かしい。当時の元気な住民の活動は今や困難なのだろうか。

施設利用や学習機会が減少してきたからといって、必ずしも住民の学ぶ意欲が減退しているわけではない。半年余り公民館分館の活動を見せてもらいながら、地域の活気の根源を住民から教えてもらうことがしばしばあった。少子化が続く一方で、地域が子ども達を見守り、一緒に育みたいと言われる方もおられる。

社会体育が盛んな地元で子ども達の育成に熱心な方、伝統文化の継承に尽力される方も大勢おられる。学ぶ力は村を元気にしたいという住民の願いにつながっている。

新しい公民館の「学びの場」は、学ぶ人達が居る地域で住民の要望に応えられる役割を担うことではないだろうか。施設の規模や機能に目を奪われずに、私たち住民も元気な地域を次世代につなげていくための学習をしていくべきではないだろうか。「学びたい、やってみたい」という人たちの声を待っているのではなく、アップロッチすることで新しい「学びの場」が作られていくことを期待したい。

H O T N E W S 掲 示 板



第3回関ブ口新潟大会実行委員会開催

県公連の理事、事務局、開催地担当者による実行委員会が次のとおり開催されました。

- 1 日時 平成23年11月24日(木)
13時30分～16時30分
- 2 会場 新潟市中央公民館
- 3 主な内容
 - ・大会テーマを再検討する
 - ・講演講師は候補が日程上不都合になり白紙状態。講師候補の情報を集める。
 - ・分科会は14。新潟2、上越1、下越1を分担し残りの10は他県が受け持つ。
 - ・その他
総務部、広報部、分科会部、輸送部・会場部の提案
- 4 次回の開催(第4回)
平成24年2月22日(水)新潟市中央公民館
実行委員全員で開催
1月中旬に案内文書を送付します。

ひろば

子どもたちと接して

聖籠町公民館運営審議会委員 宮澤 夕佳

私は、学習支援ボランティアで小学校に行き、ミンや音楽のサポートをして、いろんな子どもたちと接しています。

素直な子どもがたくさんいて、分らないところはすぐに聞かに来てくれたり、いろいろなお話をしてくれる子もいます。でも中には、緊張して、話しかけても固まっている子ややる気が出ないでいる子もいます。

地域の大人たちと接する機会があれば、横道に逸れそうな子が少なくなるんじゃないかと感じ、こういう形で地域で子どもを見守れるんだなあと思いました。

長い間関わった子どもたちは、こちらを見る時、キラキラした瞳で、真つすぐに見てくれて本当に可愛いなあと思います。こういう経験ができる私も幸せですね。



そんな時、やり方を教えながら話していくうちに、だんだん心が開けてきて、素直になったり、話までしてくれるようになります。

こういう子どもたちと接していると、たくさん心地

大会 事例発表 (概要)

高齢者の生きがいについて医療関係者（医師・保健師など）からメッセージが届けられ、これに動機づけられて様々な活動が展開されることに大きな意義を感じます。そのための公民館における学習も、始まった段階ですが魚沼医療学校と連携を深めながら一層の充実が図られるものと期待しております。

公民館は地域の「顔」となりうるか、地域における文化活動の拠点となりうるか、という問題は公民館の運営にあたって常に考えていなければならない課題であります。地域の課題にせまる学級・講座が常に開催され、学びの場として住民がそこに参加し、世代を超えて交流が促進されることは重要です。そのためには学級・講座の質を高める努力は常に求められており、それが特色ある公民館づくりに繋がるものと考えております。

魚沼市においては、50を超える文化サークルが連携して「生涯学習連絡協議会」が組織されております。この活動に対して支援することと同時に、これらのサークルがその活動の場を地域に求め、そこでのボランティア活動を展開することへの協力が公民館に求められているように感じております。

4、地域コミュニティ活動にとって不可欠な学習活動（相互学習の意義と再定義）

コミュニティと公民館の関係については、本大会でも大会主題として謳われ、特にコミュニティの再生に公民館の力量が問われているとこ

ろでもあります。公民館活動が地域社会の活性化とどうかかわるかは古くて新しい課題でもあります。

魚沼市においてもコミュニティ協議会の結成が住民の自主的な活動として進められておりますが、その背景には、まちづくり条例が存在し、市長事務局が窓口となって協議会の結成と運営をバックアップしております。その結果、公民館とのかかわりについては行政のタテワリの関係で若干くい違いを生じております。協議会の領域は、親睦を深めるためのイベントの開催に加えて高齢者福祉や青少年の育成から地域防災対策のための組織作りなど、求められる活動は多岐にわたっております。いずれも市民の連帯の輪が行動を通して深まっていくこととなります。コミュニティづくりという言葉があるとおり、市民の自発的な意思によって形成されるものであり、そこには必然的に「学習活動」を伴います。話し合い学習の積み重ねによる地域の課題を確認し、その課題解決を目指した実践が展開されることとなります。

今、魚沼市においても、結婚問題、いわゆる限界集落問題、自殺対策、など切実な問題を抱えております。それぞれの課題が地域社会の問題として取り組むとしたら容易なことではありません。しかし、切実な生活上の課題を地域で学習することは必要であり、そのためにも地域の学習拠点として公民館が役割を発揮することが求められているように思います。



魚沼医療学校の協力による高齢者大学（魚沼市湯之谷公民館）



地域の宝さがし教室（魚沼市広神公民館）

特集

第62回新潟県公民館



魚沼市中央公民館 館長
星野 修美

1、はじめに

魚沼市は6つの町村が対等合併の理念のもとに、平成16年11月1日に誕生した新しい市であります。6つの地域はそれぞれの歴史と文化が羽ばたいており、これが魚沼市の特徴でもあります。分節された地域が繋がって「市」を形成している分節・連鎖都市とも言える状況ではないでしょうか。

条例設置の公民館はほぼこの6地区に存在し、町村時代にはそれぞれが生涯学習推進計画を持ち、この計画に基づき活発な公民館活動が展開されておりました。魚沼市の新しい公民館像は、ここに立脚点を置き、地区公民館活動の活性化を求めて研究協議が重ねられました。

平成19年12月、魚沼市教育委員会は、社会教育委員の会議、生涯学習推進会議、中央公民館運営審議会にたいして、「これからの魚沼市公民館の組織及び運営について」を諮問し、平成20年7月に答申がなされました。その趣旨は、地区公民館の振興策であり、これを受けて市は条例を設置し、平成21年4月に新しい制度を発足させました。今日、これが軌道にのりつつありますが、克服すべき課題も散見されます。地区公民館の一層の振興をはかるために、以下、その課題を明らかにしつつ、地域課題の解決を目指した公民館のありかたについて考えてみたいと思います。

2、中央公民館と地区公民館の関係について

地区公民館の対象地域はほぼ中学校区となっております。ここにおける活動の促進をはかるために、中央公民館の役割のひとつに相互の連絡調整と主事研修による主催事業の充実があげられます。地域の特性を生かしてその生活課題にどう迫るか、ということは常に問われなければならないことであります。マンネリ化した事業の点検やその結果を地域に知らせる広報活動の充実も求められているところであります。

中央公民館には運営審議会が、地区公民館にはサポート協議会が置かれ、地域の声が事業に反映されるような工夫がされておりますが、審議会と協議会の関係づくりについて検討することも必要と考えております。

中央公民館においては、生涯学習室との共催で全市対象に市民講座を実施しておりますが、その内容は、人権、環境、健康、問題など、現代的な課題を魚沼市の実情に即してテーマ化しております。ここでの問題提起が地域においてさらに深められ、実生活に生かせるかたちで展開されることが期待されております。

3、地区公民館の振興をはかるための主催事業の充実

公民館が地域の教育機関としての役割を果たすためには、その中核となる主催事業の充実が求められております。その地域の生活課題解決を目指した事業の設計を趣味・教養講座からの展開の中から模索することが大切な取り組みとなってきます。そのためには学習参加者の地域のボランティア活動への参加が大きな力となってくると考えられます。地域福祉活動と公民館の事業の連携も視野に入れなければならないと思います。

学習からボランティア活動へ導くためには、学習プログラムがそのために用意される必要があります。学習者が求める要求課題を追求しながら、それが趣味的・教養的なものから地域の課題へと進む流れを意図的に工夫することも大切なことと考えます。

魚沼市では公立病院のスタッフが中心となって「魚沼医療学校」を組織し、住民参加による地域医療活動が展開されておりますが、この活動と公民館の高齢者大学とのかかわりが始まりました。今年度は、高齢者大学のひとまととして高齢者向けの医療講座を実施したところ大きな反響がありました。医療機関の利用の仕方だけではなく、高齢者自身が健康を維持し続けるための日常生活のあり方、そして何よりも大切な社会参加と仲間作りをより豊かに、ということの必要性が強調され共有することができました。

実践記録

165

シリーズ

「太陽とともにだち！サマースクール事業」

NPO法人健康サポートプラス 理事長 奈良橋 里江子

～活動をはじめたきっかけ～

村上市は、新潟県全面積の約9.3%を占める広い地域で集落が点在し、少子化により近所で遊ぶ友達がいない…という子どもが少なくありません。

近年は若年者を狙う犯罪も増え、長い期間を子どもだけで過ごすことに不安を募らせる保護者のニーズを受け、NPO活動の一環として「夏休みの一定期間、核家族のため自宅で一人で過ごさなければならぬ児童」を地域で安全に守り育てるために自主活動として始めたのが「サマースクール」です。初年度には小1～6年生12名の参加者がありました。

22年度には「子どもを安全に守り育てる事業」としてドコモモバイルファンドより助成を受け、会員以外的一般公募も含め22名の参加者で行いました。この、サマースクールと行政の「学童保育」との違いは、他団体との連携により、外に出ていき様々な社会体験を行う事業である事。校区別ではなく、市内の様々な校区から子ども達が集まってくることが挙げられます。そのため、行き帰りは車で送迎します。

三年目の今年、新潟県生涯学習課より家庭教育支援委託事業として採択され、これまでの「児童健全育成支援」から「親と子どもが共に学び合う」家庭教育支援活動へと一歩前進する事業にステップアップする機会をいただきました。

～サマースクール日程～

7月29日(金)～8月26日(金) 朝8時30分～16時00分
お盆8月11日～15日を除く計18日間

毎日の活動

8時30分より	送迎開始
10時30分まで	学習活動
10時30分から昼まで	林道散歩、屋外活動など
13時～15時まで	屋外プール、マット運動など
15時～16時まで	工作、日記、手芸など
16時より	送迎開始



イベント①

屋外バーベキュー&海水浴 8月2日(火)
七輪で焼き鳥とトウモロコシを焼いて食べました。
海は最初は冷たかったけど、楽しかった!

イベント②

調理実習 8月5日(金) ギョーザをつくろう!
19日(金) 親子でカレー作り
26日(金) 最終日 パフェパーティ
計3回

イベント③

8月16日(火) 遠足 サントピアワールドへ

イベント④

8月19日(金) 環境講座 EMダンゴを作ろう!
一般も公募 参加者 児童 18名 一般11名
いわふね地域エコセンターのみなさんにご協力いただきました。

イベント⑤

高齢者との交流会
8月23日(火) ダンス&パフォーマンスチーム
New.Age.Dragonも参加 計36名

イベント⑥

保護者向け講習会
8月27日(土) 社会教育指導員 山田久美子先生
賛助会員にも呼び掛け、32名参加。
親は、「自分が経験してきた情報を捨てることが子どもを伸ばす要素になる」という話に目からウロコ…でした。

～活動を振り返り～

21年度から継続してきたサマースクールが、これまでの「民間学童保育」から不完全ながら「家庭教育支援」へとステップアップを図ることが出来ました。

地域の企業、NPO団体や子育て支援団体との連携は、方向性が近いことも有り非常にスムーズで、民間団体のフットワークの軽さは今後の活動において大変力強く感じました。

今後も継続して子ども達が学校生活では体験しにくいことをこのサマースクールで体験させていき、豊かな心、自立心のある子ども達に育てていきたいと考えます。

また、「こどもの能力を伸ばす声掛け」「親同士の情報交換」のためにも今後も積極的に「保護者向け講演会」を開催していきたいと考えています。

楽こつ、時こねびこつ

絵画を楽しむ会

平成二十年度小千谷市の公民館絵画教室基礎講座の卒業生を中心に行われた会です。現在十五名、月一回菊地美秋先生を講師としての教室です。四十年、五十年ぶりに筆を取ったそんな人達が半分以上です。県展、市展、アークベル展と挑戦する人、三ヶ月かけて一枚仕上げの人、年に一、二枚がやつの人(私のこと)講師に「あなたの手が遅いな」、でも皆さん楽しく、一生懸命です。



年に一回全員の作品展を開

き市民の人達から見ただき励みにしています。今年も会員の中から小千谷市美術展で市長賞を受賞された方がいました。講師も大喜び。これからもそれぞれの楽しみ方で続けていきたいと思ひます。

小千谷市 絵画を楽しむ会
小野塚 スミ子 記



「和」ダンス同好会

湯沢ダンス同好会

私達のダンス同好会は、平成二十一年九月に、シルバーを対象に発足しました。

現在、メンバーは十六名、平均年齢七十六歳とメンバーの大半は、後期高齢者ですが気力は若い人に負けないよう

練習に励んでいます。

技量の向上があれば良しそれ以上に私達の目的である健康の維持増進及びメンバー相互の親睦を図り「和」を大切にをモットーに、週一回、一時間半の練習です。途中の休憩で雑談タイム、これも、「和」づくりの一つかなと。ダンスでは、マナー、エチケットを守り、パートナーへの思いやり、心配りが必要。ダンスで学んだ、思いやり心配りの気持を日常生活に活かしていければと思う。



湯沢町 湯沢ダンス同好会
会長 高橋 昭司 記

上越市板倉地区公民館の小川協力員を紹介し

ます。小川さんは埼玉生まれの都会育ちで、縁がありこの上越市板倉の地に十数年。地元のことにも精通しており、地区公民館協力員として、早や7年目を向かえたそうです。

職員よりも長く公民館に携わり、その実績の下、いろいろ教えてもらうことが多く、頼りになる逸材であることは間違いありません。また、その明るく物怖じし

上越市板倉地区公民館
協力員 小川八重子さん



ない性格は見習いたいところです。分館対抗スポーツ大会、交流会事業、高齢者大学など幅広い公民館事業を抱える中で、特に高齢者(男性)には受けが良いようで、分かる気がします。

これからも板倉の公民館活動に、そのパワーをいただき、活気ある事業が展開できるようお願いします。

(上越市板倉区分室 主任 藤巻恒一 記)

本年4月に市民課から生涯学習課に異動してきた、若月主査を紹介し

ます。当生涯学習課は市民プラザの中にあります。市民プラザが複合施設のため、職員はこのほかに柏崎公民館・勤労青少年ホームの兼任辞令をもらっています。担当は、出前講座、緑化講習会、各種統計調査などです。統計調査の「社会教育調査」の取りまとめでは、少し疲れた様子ですが、担当業務に責任を持ち頑張っています。

11月に柏崎公民館で舞踊や合唱などの生涯学習活動に

柏崎市生涯学習課
主査 若月 沙織さん



り組んでいる団体の日ごろの活動成果を披露する発表会(柏崎マナビイステージ)があります。本人自身も、音楽のグループ活動をしていて、発表会の当日は、音楽グループの団体に出演し、また、発表会のスタッフの一員でもあり、八面六臂の活躍をすることになっています。このようなエネルギーをこれからの公民館事業に取り込んでもらいたいと期待しています。

(柏崎市生涯学習課 課長代理 大倉精一 記)

素顔拝見

お元気ですか



渡辺 均
(長岡市)

退職後は、シルバー人材センターに入会し、主に事務局の補助的な仕事をしています。

ここでは、草刈りの作業もします。シルバー世代の中では若く軽く考えていた作業でしたが、刈払い機の操作は大変きつく年配の諸先輩には体力も技能もありませんでした。追いつくことを目標にしたと思います。

また、水田を50アールほど耕作していますが、豪雨で、大きな被害を受けました。地域の皆さんと復旧の方策を協議しているところです。

「元気です」とばかり言うてはいられない状況ですが、適度に緊張のある日々を過ごしなが、動画サイトで昔の音楽や出来事を見ながら息抜きをしています。

Net work ネットワーク

各地区の研修会等が開催されました。

○上越地域三市公民館連絡協議会職員等研修会

期日 11月10日(木) 会場 新井総合コミュニティセンター
内容 基調講演「災害に負けない住民主体のまちづくり」
講師：柏崎市北条地区 江尻東磨・戸田洋子
実践活動報告
発表者：糸魚川市市振地区 野本富男



上越・熱弁の戸田洋子講師

○中越地区公民館長・主事・公運審委員等研修会

期日 11月18日(金) 会場 湯沢町公民館
内容 講演「私たちが求めるものは青い鳥」
講師：手島勇平
事例発表
①「今、必要なことをやるために」
発表者：南魚沼市 木村義隆
②「地区公民館長・分館長の役割について」
発表者：湯沢町 田村康大



中越・会場いっぱいの参加者



下越・代議員による審議の様相

○下越地区公民館連絡協議会第二回代議員会

期日 11月15日(火) 会場 下越教育事務所
内容 平成23年度の総括と24年度の事業予定等の審議

事務局長のつばやき
早いもので、もう師走に入りました。別に差し迫った用もない私ですが、世間並みに何か気忙しい感じがします。今年は大震災など大変な一年でした。そんな中で「な

あ と が き

レシジャンパーの優勝やバレーボールの健闘など女性の活躍が目立った1年でした。歴史的に女性が元気なときは国が繁栄するようです。男性も負けずに。カチカチでも出したいところですがもちろん世界は相手にしてくれません。
(田原)

未来に残そう美しい山村

山村地域は、食料の生産、水源のかん養、災害の防止、空気の浄化、心のやすらぎの提供など様々な役割を果たし、国民の生命と生活・財産を守っています。

全国山村振興連盟新潟県支部
支部長(村上市長) 大滝 平 正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

◆新潟県内の山村市町村(振興山村:15市町村)
上越市、三条市、柏崎市、加茂市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、五泉市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、阿賀町、湯沢町、関川村